



自ら掴む経営エッセンス！

(記事：いどばた稲毛) 渡部成夫 過去記事も読めます⇒<http://idoina.com>

11/6 (火) テーマ：『病気をありがとう』
20社20名出席 講師：市原市中央倫理法人会 相談役 佐藤 春治 氏

小さな事でも、気付いたら注意して正すのが我々の使命



佐藤春治氏は昭和16年生まれ、大翔株式会社の代表取締役で、市原市で葬祭業を営む。息子が3人、うち長男・次男がそれぞれ後継者として、各ホールを取り纏めている。

倫理塾のおかげか、2人ともリーダーとして、挨拶・清掃・お客様対応・朝礼に一生懸命に取り組み、社員もまたそれに応えてくれている。佐藤氏は、「非常に感謝している」と話す。

美浜倫理に対しては、「寒い中、竹が節目節目で成長を重ねる誠実な寒竹会長に、足元の皆様のご声援を」と期待・応援の言葉を。また、「今は基本が疎かな時代、小さな事でも気付いたら注意して正すのが倫理を勉強する者の使命」という。

周囲の全ての人に感謝の気持ち
を。心に沁みる佐藤氏の講話！

節目の還暦で大手術を迎えて

元々痔の家系であったため、出血があっても自ら「痔です」と申告し、医師もそれを信じて増血剤を出していたのだが、還暦近くなって悪化してきた。「どうもおかしい」と思い、平成13年8月末に検査をすると、いきなり「癌がすぐ進んでいる」と言われ、大腸癌手術のためその場で入院となった。

9月11日ニューヨークの同時多発テロを病院のテレビで見て、2日後の13日に人生初の手術をした。ただ気の落ち込みはなかった。倫理を習っていたおかげで、「先生に早く癌を取って頂いて、早く治そう」と明るく前向きだった。

佐藤氏の前向きさには、医者や看護婦も驚いていたという。また佐藤氏は相部屋仲間に、「自分でできることは自分でしないと、どんどん落ち込んでいっちゃうよ」と、よく声を掛けながら、自身は「病気に勝つぞ」という強い信念を持ち、その思いを1ヶ月間毎日ノートに書き続けた。そして、手術は成功した。

その間、家族や親戚、近隣の倫友が、毎日のように見舞いに来て励ましてくれた。当時、市原市中央倫理法人会の8代目会長を仰せつかっていたが、会長不在の中、役員皆が力を合わせて、今まで10数名だったMSを30名以上にまで伸ばしてくれた。「一日も早く倫理に出て恩返しをしたい」と、術後も進んでリハビリに取り組んだ。

病気をありがとう。大病のおかげで、また感謝を知る

佐藤氏は無事退院し、自宅療養の忠告も無視して、即倫理に出た。「今振り返っても、役員の助け合いが、嬉しくて忘れられない」という。また、その時のお医者さん、看護婦さんへの感謝の気持ち。24時間体制で本当に大変な仕事だとわかった。手術から6年、転移もなく、節目の60歳で大病をして本当に良かったと感じている。

大病は「これ以上働いていたら死んでしまうよ。少しゆっくり休めよ」という天啓。健康に越したことはないが、病気になったら、それはベッドの上でゆっくりと人生を反省する機会だ。「人生生きてる間は勉強、御身を大切に」と話してくれた。

昭和62年に入会して依頼、今まで倫理一筋できた佐藤氏だが、最近は倫理以外でも役職を受け、色々な方面に足を運ぶ中で、勉強になることが多いという。また今までできなかった家族サービスや孫との接触も大切にしているという。

堂本千葉県知事との経済シンポジウム 12月8日(土)13時から 千葉グリーンタワーで！

今週の会員スピーチでは佐久間秀一千葉地区長が、「堂本千葉県知事との経済シンポジウム」の開催を発表してくれた。

「行政トップとの意見交換の場を持つことは、経済の繁栄・会員の繁栄につながり、また倫理をアピールする良い機会です。会場は300人しか入れませんが、特に足元の美浜からはたくさんの方のご参加を、よろしくお願ひします」。

次回 第853回MS！ 11/13 (火) 6時～7時+朝食会 ホテルニューオータニ幕張 (043-297-7777)

テーマ：『障害者雇用と企業倫理』 講師： 職業倫理研究所 美浜区会員 野中 由彦 氏

できるできるやればできる！
明るく楽しくなければ倫理じゃない！
・会員120社・MS30名以上・美浜を美しく